



TITLE:

和歌山県白浜町沿岸へのオウムガイ(オウムガイ科)の漂着記録4例

AUTHOR(S):

久保田, 信; 檜山, 嘉郎; 山本, 泰司; 田名瀬, 英朋; 湊, 宏; 小山, 安生

CITATION:

久保田, 信 ...[et al]. 和歌山県白浜町沿岸へのオウムガイ(オウムガイ科)の漂着記録4例. 南紀生物 2010, 52(1): 79-80

ISSUE DATE:

2010-06

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/188331>

RIGHT:

© 南紀生物同好会

和歌山県白浜町沿岸へのオウムガイ(オウムガイ科) の漂着記録 4 例

久保田 信*・榎山 嘉郎**・山本泰司*
田名瀬英朋***・湊 宏****・小山 安生*****

Shin KUBOTA, Yoshiro KASHIYAMA, Taiji YAMAMOTO, Hidetomo TANASE,
Hiroshi MINATO and Yasuo KOYAMA: Four records of *Nautilus pompilius* (Nautilidae)
stranded in coasts of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan

熱帯性のオウムガイ *Nautilus pompilius* の貝殻は、多数の隔壁に仕切られガスのつまった気房があることにより死後に海表面に浮き上がり、暖流に乗って長距離を運ばれ(死浮遊性)、わが国の中部以南の沿岸各地に漂着することがある(小島・加藤, 1987; 中西, 1990, 1999; 石井, 1999)。1843 年から 2009 年までの期間中、わが国に漂着した記録の中には紀伊半島沿岸への 20 例ほどの漂着・漂流例も含まれ、御坊市から古座町までの各地で発見されている(湊, 1965; 浜田, 1965, 1966; 小山, 2009)。今回、2009 年に久々に本種の貝殻 1 個が和歌山県白浜町沿岸に漂流しているのが山本泰司により発見され、田名瀬英朋と榎山嘉郎により 1970 年以降に収集されているこの海域への未報告の 3 個体もあわせて 4 例の漂着(表 1)について報告をする。なお、京都大学瀬戸臨海実験所付近へ 1997 年から 2002 年までの 5 年間(久保田・小山, 2002)、およびそれ以降の 2009 年 12 月下旬に

至るまでに(久保田, 2006, 未発表データ)漂着した頭足類の死殻の記録(1 目 2 科 2 属 6 種)の中に本種は入っていない。

白浜町沿岸海域では 1928 年頃にエビ刺し網にかかった住房が損失した貝殻の初記録後、1937 年頃に 2 個体目が(詳細な記録なし)、続いて 1947 年頃の 9 月に住房が損失した貝殻が 3 個体目として発見された(湊, 1965; 浜田, 1966)。これ以降の記録がなされていないが、下記に示すように、今回、4 個体の記録(表 1)を入手できた。それらは 2009 年より過去半世紀にさかのぼる記録で、未記録の 1960 年代だけを除くこの期間中に、丁度 10 年に 1 回程度の漂着の記録となった。これら 4 個体中、3 個体が 10 月に発見されているのが注目される。同様に、1920 年代から 1950 年代までに発見された 3 個体についても、10 年に一度の発見であったことから、新旧の約 40 年間ずつの本海域への漂着頻度はほぼ同じであるといえる。

表 1 和歌山県白浜町沿岸へ 1970 年代以降に漂着・漂流したオウムガイの貝殻の未報告 4 例。

Table. 1. Unreported stranding or drifting records of shells of *Nautilus pompilius* in coasts of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan since 1970's.

発見日 Dates found	発見場所・状況 Sites found・circumstances	住房の破損 Damage of living chamber of shells	標本の保管 Depository of specimens
Oct. 8, 1970	瀬戸湾内打上	わずか	田名瀬英朋*
Oct. 30, 1981	京都大学瀬戸臨海実験所島島打上	なし	榎山 嘉郎
Oct. 4, 1995	京都大学瀬戸臨海実験所北浜洞門打上	甚大	榎山 嘉郎
Aug. 21, 2009	京都大学瀬戸臨海実験所北浜洞門前を漂流	わずか	久保田 信

* 東京大学へ貸出中

* 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University, Shirahama-cho
459, Nishimuro, Wakayama Prefecture 649-2211, Japan.
e-mail: shkubota@medusanpolyp.mbox.media.kyoto-u.ac.jp
** 〒649-2201 和歌山県西牟婁郡白浜町堅田 1143
*** 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 676
**** 〒649-2333 和歌山県西牟婁郡白浜町中 193
***** 〒640-8028 和歌山県和歌山市匠町 1 番地の 1

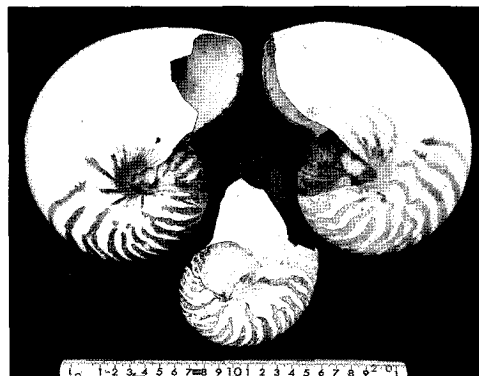


図 1 和歌山県西牟婁郡白浜町へ1981年から2009年までに漂着・漂流中の3個体のオウムガイの貝殻。

Fig.1. Three specimens of *Nautilus pompilius* stranded or drifting in coasts of Shirahama town, Wakayama Prefecture, Japan during 1981-2009.

今回の4標本のうちで、貸し出し中のために標本写真を提示できなかった1個体については、同定不能種を含め4種の付着生物を確認しているの、数ヶ月の漂流が推測される。残りの3標本(図1)は、貝殻の開口部分である住房が大きく破損している1個体と破損がほとんどなかった2個体からなり、後者は何度も磯浜などの漂着を繰り返さないで当地へ流れ着いたものだろう。住房の破損が激しい古い2標本にはコケムシ類やカキ類が付着していたが(浜田, 1966), 今回の3個体とも付着生物はみられなかったの、少なくとも住房の破損がない2個体は長期間(数ヶ月から1年未満)かけて運ばれたものではないだろう。

引用文献

石井 忠. 1999: 漂着物辞典, 380+11pp. 海鳥社, 福岡.
浜田隆士. 1965: オウムガイ類の遺骸漂流. *Venus*,

24, 181-198.

———. 1966: 南紀海岸への漂着ノーチラス. *南紀生物*, 8 (1), 14-16.

久保田 信. 2006: 「宝の海から 白浜で出会った生き物たち」. 233 pp. 紀伊民報, 和歌山県田辺市.

———. 小山安生. 2002: 番所崎, 特に“北浜”(和歌山県白浜町)へ打ち上げられた軟体動物貝殻目録(2). *南紀生物*, 44 (2), 133-139.

湊 宏. 1965: *Spirula spirula* (LINNÉ) の漂着について. *南紀生物*, 7 (1), 28.

中西弘樹. 1990: 海流の贈り物, 254pp. 平凡社, 東京.

———. 1999: 漂着物学入門, 211pp. 平凡社, 東京.

小島郁生・加藤 秀. 1987: オウムガイの謎. 197pp., 筑摩書房, 東京.

小山安生. 2009: ふりいとおく 貝の雑記帳 (I). 本覺寺杼貝, (58), 7-8.